

子どもが遊べる川づくりプロジェクト

豊かな河川環境と生物多様性を守るために、子どもも大人も、川で「遊び・親しみ・学ぶ」ための支援活動をしています



晴嵐小学校・三田川中流の生き物調査(2024) 三田川の水は水質階級Ⅰと水質階級Ⅱの間と判定

おおつ環境フォーラムは、2001年に大津市環境基本行動計画「アジェンダ21 おおつ」に基づいて設立され、2013年に法人格を得て、「特定非営利活動法人・おおつ環境フォーラム」が発足、市の指定事業をうけ大津市地球温暖化防止活動推進センターとしても事業を実施中。9プロジェクトや研究グループが活動をしています。会員約200名。

川づくりプロジェクトは、2002年より「三田川の生きものマップ」作成を目標に、大津市晴嵐学区を流れる三田川を活動拠点に、上流・中流・下流で生き物の観察を始めました。2005年から、晴嵐小学校4年生の総合学習「地域の川の生き物調べ」の学習支援依頼をうけ、これまで毎年150名程の生徒たちと一緒に三田川の川の生き物調査を続け、逢坂小学校、真野小学校、中央小学校でも川の調査の学習支援も毎年続けています。2016年には、晴嵐学区の三田川、逢坂学区の吾妻川、伊香立・真野・堅田学区の真野川の調査結果をまとめ、「河川の生き物マップ」3部作を発行し各小学校に配布、学習支援に活用しています。

<川づくりプロジェクトの活動>

◇市内小学校4年生の「身近な川の水生生物調査から川について学ぶ」体験学習の支援

◇市内河川の水生生物観察会・市民環境塾・自然家族事業を開催

◇自主研修の観察会を実施



中央小学校・吾妻川下流の生き物調査(2025) 吾妻川下流の水は、水質階級ⅠとⅡの間と判定。



自然家族事業・大宮川の生き物調べ(2025) 大宮川は、水質階級Ⅰのきれいな水と判定。

<川づくりプロジェクトが伝えたいこと>

- ・身近な川の環境やどんな生き物が住んでいるのかを調べる目的
- ・川の生き物調査(特に、指標生物)で、川の水質、川の健康を知ること
- ・大津の自然や川に目をむけ、川の生き物や川を大切にすること
- ・子どもも大人も川遊びに夢中になり、心をいやす川の魅力
- ・身近な川から、川をよりきれいにする取り組みや行動を考えること

*身近な川の調査内容

川のようす(水温、流れ、透視度、感触、におい、ごみ、周辺環境)

川に住んでいる生き物調査(特に指標生物に注目)、外来生物

パックテスト(COD)水質調査・生物指標と照合

指標生物とは、全国に分布し、みつけやすく区別しやすく、水の汚れに敏感な29種類の水生生物を水のきれいさの目安に、水質を4つの階級に分けています

水質階級	川の水のよごれ	指標生物
水質階級Ⅰ	きれいな水	アミカ類、ナミウズムシ、カワゲラ類、サワガニ、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ブコ類、ヒビトンボ、ヤマトヒケラ類、ヨコエビ類
水質階級Ⅱ	ややきれいな水	イシマキガイ、オオシマトイケラ、カワニナ類、ゲンジボタル、ミズムシ、アメリカザリガニ、タニシ類、エラミミズ、ユスリカ類
水質階級Ⅲ	きたない水	イソコツブミシ類、タニシ類、ニホンドロソコエビ、シマイシビル、ミズカマキリ、ミズミズ
水質階級Ⅳ	とてもきたない水	アメリカザリガニ、エラミミズ、サカマキガイ、ユスリカ類、チョウバエ類

出展:環境省 全国水生生物調査のページ

川岸や岸近くにいる水生生物 流れの中の石のまわりにいる水生生物



【川底】ヨコエビ類、コオニヤンマ、ゲンジボタル、ミズムシ、アメリカザリガニ、タニシ類、エラミミズ、ユスリカ類
【水草】ミズカマキリ、サカマキガイ



【肉食系】カワゲラ類ナガレトビケラ類ヒビトンボヤマトヒケラ類
【葉食系】ブコ類ヒラタカゲロウ類ヒラタドロムシ類アミカ類
【雜食系】コガタシミヒケラ類

動画 指標生物 抜粋	水質階級Ⅰ。	水質階級Ⅱ。	水質階級Ⅲ。	水質階級Ⅳ					
	ヒビトンボ	サワガニ	カワゲラ類	ゲンジボタル	ヒラタドロムシ類	ミズミズ	ヒル類	アミカ類	ユスリカ類

動画:制作 川島大助(環境省 環境カウンセラー)<https://edu.env.go.jp/counselor/counselor/2016225002>